

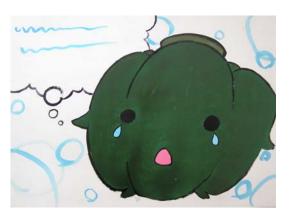


ゆでかぼちゃは緑黄幼稚園に通う年長組さん。 ある日、ゆでかぼちゃは何だかとってもあわてた様子で ドタバタと家に帰っていきました。

ゆ 「ただいま!」



- ト 「あらお帰り、ゆでかぼちゃ。どうしたの? そんなにあわてて」 ゆでかぼちゃは、トママにとびつき、あわてたそぶりで 話しはじめました。
- ゆ 「あのね、今日幼稚園でく防災訓練>っていうの があったの。先生が本当の地震はすっごくコワイ って言ってたんだよ!」
- ト 「・・・そうねぇ、地震っていうのは本当にこわいものよ。私達の命をうばってしまうかもしれないわ」その言葉を聞いたとき、ゆでかぼちゃは今にも泣きそうな顔になりました。



ゆでかぼちゃは、

ゆ 「そっそんなのイヤ!だっだから、お家でも<防災 訓練>しよう!」

と言いました。ゆでかぼちゃは、地震のせいで大好きな家族が死んじゃう事がとってもこわかったのです。 トママも、同じ事を考えていました。

ト 「よし、それじゃ早速、防災訓練をしましょう。 みんな一、一階に下りてきなさーい」



FFFFF.....

みんながゆでかぼちゃのもとに集まって来ました。

全 「何、何、いったいどうしたの?」 と、問いかけてくるみんなに、ゆでかぼちゃは、これから 〈防災訓練〉をする事を説明しました。



ナ 「地震ねぇ・・・。あまりあったことはないけども、確か 出口を作っておくために、ドアを早めに開けといた 方がいいとか言ってたのぅ・・・」

と、ナスバーさん。 お姉さんのキャロリーンも

キャ 「私は学校で、おさない、かけない、しゃべらない、 と習いましたわ。地震の場合おさない、かけない が、大切ですわね」

キャロリーンに続いて、コーン兄貴も学校で習った事を話しました。

コ「僕は、机の下にもぐって頭を守れと言われたよ」



コーン兄貴が話し終わったら、次は根じいが話し出しました。

根 「タンスや本棚を固定しておけば倒れずにすむん じゃないのかね。くぎやらでトンットンットンッとな。 フォッフォッフォッ。」

### ポテ父さんも

ポ 「ガラスが割れた時も考えないとなぁ。窓のそばに ベッドがあったら危険だし、ガラスが足にささったら 大変だからスリッパも用意しとかないとな」

と、意見をだしてくれました。



ト 「みんなが持ち出す物も決めないとね」 と、トママ。

みんなが次々にいろんな考えを出してくれます。

ゆ「じゃあ、早くやっちゃおう」

ゆでかぼちゃは大はりきりです。みんなは、手分けして タンスを壁にうちつけたり、スリッパを用意したり、ベッド の位置を変えたりと、地震に備えて準備をしました。



- ゆ「よし、もうコレで完璧だ!」
- ポ 「こらこら、まだかんじんの訓練をしてないじゃない か」
- ゆ「あ・・・そっか」
- ゆでかぼちゃは、少しはずかしそうに笑いました。



# と、その時!

『ガタガタガタッ』つと部屋がゆれたのです。

な・根 「うわーっ!地震だぁー!」

コ・キ「たっ助けて一」

皆は、急にきた地震にびっくりして、パニックになって しまいました。

- コ 「死ぬ一助けろ一ッ」
- ・・・コーン兄貴は人格が変わっちゃってます。

(犬のバナナ犬も バ「バナナ!バナナ!」と、ほえています。)



### ゆでかぼちゃは

- ゆ 「みんなおちついてっ」
- と、まるでお兄ちゃんになったかの様にしっかりして
- ゆ「みんなっ、ひとまず机の下にもぐるんだっ」
- と、みんなを導いていきます。
- ゆでかぼちゃが、みんなを家の外にゆうどうしていた時、地震はし・・・・・んと、しずまりました。
- みんなもやっと落ち着きました。



#### みんなが

全 「ゆでかぼちゃ、ありがとう。ゆでかぼちゃの おかげだよ。みんなが無事なのは」

と、お礼を言いました。

ゆでかぼちゃは、照れくさそうに、

ゆ 「そんなことないよう。そっそれよりみんながあわて ず逃げれるように、もう一回防災訓練しよう!」

と、言いました。



みんなが 全 「うん、しようっしようっ」 と、言いながら家に帰って行きました。 それ以来、充実家族は3日に1回、防災訓練をしている 様です。